

鹿児島大発新興、日本臓器製薬と提携と発表 がん治療ウイルス開発

2025/08/05 16:30 日本経済新聞電子版 498文字

鹿児島大発スタートアップのサーブ・バイオフーマ（鹿児島市）と日本臓器製薬（大阪市）は5日、遺伝子改変ウイルスを使ったがん治療法の開発で提携すると発表した。日本臓器製薬が国内での開発・販売権を取得し、サーブは一時金などとして最大105億円を受け取る。2027年にも国内で承認取得を目指す。



記者会見するサーブ・バイオフーマの山田昌樹社長（左から2番目）と、日本臓器製薬の小西崇文社長（同3番目）（5日、東京都中央区）

同日、都内で開いた記者会見でサーブの山田昌樹社長は「ウイルス療法は新しいがん治療の選択肢になり得る。骨や筋肉など希少がんの患者にぜひ新薬を届けたい」と話した。

日本臓器製薬の小西崇文社長は「有効な治療法のない患者に貢献できることに意義と責任を感じている」とコメントした。

サーブはウイルスを使ったがん治療法を開発するスタートアップだ。正常組織を傷つけず、がん細胞のみを破壊するようウイルスの遺伝子を組み換える。骨のがん向けに開発を進め、最終段階の臨床試験（治験）を25年10月に開始する。筋肉や脂肪、血管などにできるがん向けにも今後開発する。

承認申請は日本臓器製薬が担い、27年にも本承認の取得を目指す。がんウイルス療法は日本では東京大学と第一三共が共同開発し、条件・期限付き承認を取得した「デリタクト」がある。

許諾番号30105593 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.